

つきたい力

取組みの概要・ポイント

家庭学習習慣・思考力・表現力

「端末を活用した家庭学習」と「思考・表現する活動」

具体的な取組みの内容 端末を活用した家庭学習 思考・表現する活動

端末を活用した家庭学習

授業の予習や思考・表現する活動の準備する課題

- [例]
- 家にある電池の写真を撮影してくる
 - 予習としてNHK for Schoolなどの動画を見て疑問点を記述する
 - 英語のスピーキングを録音する、プレゼンで使用するパワーポイント資料の続きを家で作成する
 - ダンスの練習をし、撮影・提出する

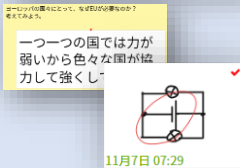
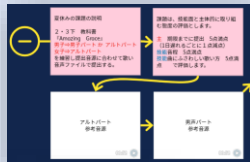


- 生徒が1人で進められる学習を家庭ですること、授業でしかできない活動に時間を使うことができる
- 教員が生徒の疑問点や考えを把握した上で授業に臨むことができる



授業で学習した知識を使って表現したり・書いたりする課題

- 無音の解説動画にアテレコをする課題（浮力がはたらくしくみ等）
- 歌唱の録音（amazing grace等）
- 「故郷」を読んで人物相関図を作成する（国語のデジタル教科書の機能）
- 記述問題などを定期的に課し、生徒がロイロノートで提出し、教員が添削する



授業で学習したことを使ってアウトプットし、次の学習にいかす



思考・表現する活動

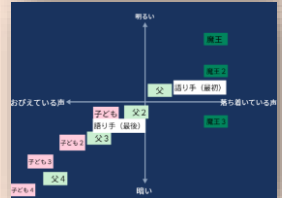
思考ツールを用いた学習

- 家で撮影したいろいろな電池の特徴を調べ、ベン図を使って比較する
- NHK for Schoolを見て感じたみんなの疑問を分類し、解決したい課題を明確にして授業に取り組む
- 音楽の「魔王」を聞いて声の特徴を比較し分類したり多面的にみたりする



シミュレーションを用いた学習

- 関数や図形を描画するアプリケーションを使って視覚化したり、試行を繰り返したりして、主体的に探究する
- WebCAD（間取り作成ツール）を使って心地よい生活を考える



プレゼンテーションをする

- 家庭科や理科の自由研究の内容をPowerpoint資料を使って発表する
- 英語のスピーキングテストをPowerpoint資料を使って行う



取組みを通しての子どもの変容

生徒が1人でも取り組むことが可能な学習を「端末を活用した家庭学習」と位置付けることで、授業時間内で表現したり思考したりする活動をより多く確保することができ、生徒の表現力を高めることができた。また、思考ツールを授業に取り入れることで、考えることが苦手な生徒も積極的に取り組む様子が見られた。（「考える方法を学ぶ」ことで主体的な学びにつながったためだと考えられる）

思考ツールを活用した実践事例の詳細はコチラ

